



「tagger (タガー)」… ことばの“妙”

◎おにごっこをしていて、自分が「おに」になると、そのことが受け入れられなくて怒ってしまう子供がいます。自分が「おに」になる…。「おに」のことばのイメージが「負け」「悪者」と一般的にあまり良いものではないので、嫌な気持ちになってしまうのでしょう。

◎ところで、「tagger(タガー)」ということばからは、どんなことをイメージされますか？ 「なんかかっこいい」「トラやヒョウのような強そうな動物？」「悪をやっつける戦闘ロボ？」ということになるでしょうか。これは実は、おにごっこなどの「おに」という意味です。同じ意味なのに、ことばの響きによってかなり印象が変わってきますね。

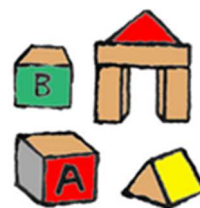
※これは、先日おにごっこをしていた子供が「おに」になってしまい、一瞬感情が高ぶってしまいましたが、「タガーになった！」と自分で言い聞かせて、引き続き楽しく遊ぶことができたという事例から引用したものです。(この子供は英語の単語に詳しいです)

- 「あと30分しかない」と「あと30分もある」
- 「宿題が終わるまで遊ばせん」と「宿題が終わったら遊べるよ」

同じような内容なのに、言い方ひとつで受け止める印象が変わってきますね。このような例が他にもいろいろあります。

◇部屋におもちゃがちらかっている場合

- 「おもちゃを片付けなさい！」
- 「さあ、いっしょにおもちゃを片付けましょう！」
- 「使ったおもちゃ、どうするんだっけ？」



◇テストの点数がよくない場合

- 「またこんな点数？ ちゃんと勉強しなさい！」
- 「だけど名前の字が上手に書けているね」
- 「前回よりは点が上がったじゃない」

◎言い方次第で、モチベーションが上がったり下がったりします。私たち大人が「ことばのセンス」を高められるように、日頃から心がけたいですね。

※「こころのお便り」は、情緒通級の現役教諭が原稿を書き、深大出版で編集しています。
子育てに悩む保護者の方、児童を理解したい先生等どなたでもプリントしてお使いいただけます。